

愛荘町こども計画(案)に対するパブリックコメントの実施結果について

1. パブリックコメントの実施状況

(1)コメントの募集期間

令和6年12月25日～令和7年1月24日

(2)コメントの状況

提出数:2件(町内在住1件、町内の事業所・団体など1件)

2. 意見の内容と町の考え方

第1章 計画の策定にあたって			
No.	コメント内容	頁	意見に対する町の考え方
1	P3下から2行目、4行目に記載されている【ウェルビーイング】など、カタカナ語に対して意味の説明がある方がわかりやすいと思います。(用語の説明一覧を記載)	3	カタカナ語や専門用語等について、用語解説を追加します。
第4章 施策の展開			
No.	コメント内容	頁	意見に対する町の考え方
2	P48～49について、【めざす姿】中「早期に適切な支援につながり…」とありますが、課題の早期発見が必要不可欠です。支援を必要とする人のファーストタッチが子育て分野とは限らないと考えられますので、社会福祉法に基づく重層的支援体制整備事業の実施と支援会議の開催を明記し、都度、関係機関や者が情報共有し、誰も取り残さない、取りこぼさない体制を構築することを記載すべきと考える。	48	現在、重層的支援体制の整備に取り組んでおり、子育て分野を含む地域福祉課題に包括的に対応していくことをめざしています。このことは、現在策定中の第5期愛荘町地域福祉計画において定めることとします。
3	子どもの貧困対策において、生保困窮者への対応にかかる町内連携会議の実施を記載したらどうでしょうか。	49	現在、生活保護受給者等、生活困窮者に対する支援について生活困窮者自立支援制度庁内連携会議等で関係機関間の情報共有、連携を図っています。このことは、「①経済的な安定を図るための支援」における「関係機関と連携し」に含んでいます。
4	障がい等のあるこども・若者への支援について、1月19日に開催された、「愛荘町福祉コミュニティ親の会」の設立総会の時に発表されていた保護者の意見の中で、「愛犬つくし教室」での出会いが大変すくわれたとおっしゃっていました。早い時から、ひとりぼっちではない、みんなで手をたずさえて頑張っていきたいという声かけがどれだけ、勇気をもらえるものかと思います。その意味で、早い時期から「愛犬つくし教室」を紹介し、相談支援ができるようにしていただきたいと思います。障がいのある子どもを持つ親は、子どもが成長するたびに悩みます。保育園、幼稚園、小学校へ入れようか、養護学校へ入れようか。学校卒業後、作業所はどこにしようか。行く場所が決まれば、家から通わせようか、グループホームに入れようか。また、家では面倒がみられず、施設に入れる場合もあります。等々、そのたびに保護者によりそう相談に乗っていただくよう施策を願います。これらのことは数年前までは、大変な努力が必要で、当時の保護者の努力によるものだと思います。一つ一つではありますが、よくなるように頑張りたいと思います。	50	障がいのある子どもを持つ保護者の皆様に対して、「愛犬つくし教室」をはじめ、様々な正しい情報を提供するとともに、誰もが安心して相談しやすい体制づくりと見通しの持てる子育てができるよう努めています。